

# めでいかすとり Médicastre

一般社団法人  
鶴岡地区医師会  
基本理念

鶴岡地区医師会は、地域住民の健康維持・増進と健やかな長寿社会の実現のために地域に貢献するとともに、医の心を忘れず知識と技術の向上をめざし、不断の研鑽に励みながら日々前進する組織をめざします。



「巳年の年男・年女」

年頭のごあいさつ



## 年頭あいさつ

一般社団法人 鶴岡地区医師会  
会長 福原 晶子

明けましておめでとうございます。昨年に続き雪の少ない年末年始で、穏やかな新年をお迎えになられたことと存じます。

昨年は1月の能登半島地震に始まり、地震や台風、集中豪雨などの自然災害が全国で多発しました。特に能登半島においては、地震からの復興を目指している中、9月後半の豪雨により、多大な被害が出たことは記憶に新しいところです。

山形県においても、6月から7月にかけて梅雨前線の影響による豪雨が激甚災害指定を受けるほどの降雨量で、当地域でも甚大な被害を被りました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、一日でも早期の復興がなされ、日常生活を取り戻すことができることを祈念したいと思います。庄内地域は、比較的災害が少ない地域と思われておりましたが、昨今の気象状況などを考えると、今までとは異なった対策や体制づくり、マニュアルの整備などが必要であると考え、医師会内でも対応しております。

鶴岡地区医師会の昨年・今後のことを考察したいと思います。相変わらず、会員の高齢化や体調不良による閉院、学校医や施設の嘱託医の辞退、新たな産業医の依頼への対応など、すぐには決まらないことも多く、今まで以上に会員の皆様方のご協力を仰がなければならない案件が増えています。ご自身の事業でご多忙の中お願いするのは大変恐縮ですが、今後、在宅医療や救急医療も含め、更なるご協力・ご配慮をお

願いたします。

湯田川温泉リハビリテーション病院に念願だった常勤医が5月に着任いたしました。また、病床機能の変更により病床利用率も上がってきております。しかしながら、常勤医師の高齢化は依然として解決すべき問題として残っております。健康管理センターにおいても、受診者の減少を念頭に置いておりましたが、健診内容の見直しや価格改定等も含め、受診者の減少もそれほどではなく、堅調な収支が見込まれております。

しかしながら、この2つの事業以外は収支の状態が悪化しております。昨年医師会内で、今後の医師会収支の推移を分析したところ、思っていた以上に早期に医師会会計が悪化することがわかりました。医師会事業は半ば公益的なところがあり、運営的に不採算部門をそれだけの理由で切り捨てることはできません。しかしながら、医師会としても400名あまりの職員の生活の安定や、仕事に対するモチベーションを保つことを目指さなくてはなりません。そのため、今年は、医師会事業の見直しを含めた体制作りを実施していく予定です。また、昨年からは、医師会職員の中に新たに業務改善推進担当職を設けております。役員・職員一丸となって、この厳しい状況に立ち向かっていく所存ですが、そのためにも、改めて会員の皆様方の暖かいご援助をお願いする次第です。

年頭のごあいさつ



## 新年を迎えてのご挨拶とご報告

～令和 6 年を振り返り、そして令和 7 年を迎える

鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院～

鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院

院長 武田 憲夫

鶴岡地区医師会会員の皆様、医師会職員の皆様、明けましておめでとうございます。本年も宜しく願い申し上げます。旧年中は、当院運営に関して、色々ご指導、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

新年に当たり、令和 6 年のご報告と令和 7 年の当院の主な方針をお話しさせていただきます。

まず、2024 年 4 月から始まった大きな問題は、医師の働き方改革です。1 年の医師の時間外勤務時間が 960 時間が上限、当直は最大週 1 回、休日日直は月 1 回と決められました。この規定通り運用するには、当院の規模では医師が 10 名以上必要ですが、当院の当時の医師は 2 名でした。福原医師会長、鈴木荘内病院長の積極的なご協力で、医師会員、荘内病院の先生方からご協力をいただき、でも、それでも足りず、医師派遣会社へ申し込み、なんとかギリギリ運用出来ています。しかし、当然のことですが、医師の異動や、派遣会社からの医師がご都合でお辞めになることが続き、この春からは 3 名ほどの不足になり、新たな対応が必要となっております。

5 月には、待ち望んでおりました新しい医師の加入がありました。2023 年 10 月、当院内科医上野寿樹先生がお亡くなりになり、その後、医師 2 名体制で運用し、患者さん、職員の皆様にご心配、ご不便をおかけしておりましたが、2024 年 5 月 1 日から、新たな内科医として野口健一先生がご勤務されていらっしゃいます。野口先生は、1984 (昭和 59) 年千葉大学ご卒業で、内科系の研鑽をされていらっしゃいます。山形県には、飛島の診療所に 2 年弱ご勤務の経験がおありです。先生の積極的で前向きなご性格と、豊富な臨床経験を発揮され、当院の医療

の向上や経営面にも貢献いただいております。

当院の第 2 病棟は、長年療養病床としても運用してきておりましたが、国の病床削減方針で療養病床の運用が厳しくなり、2024 年春から全病床を「地域包括ケア病床」といたしました。比較的軽症な急性期患者さん（サブアキュート）の受け入れ、レスパイト入院なども可能であり、診療所の先生方にもご利用しやすいと思います。御検討頂けると幸いです。ご質問、お問い合わせは、当院地域医療連携室までお願いいたします。

新たなリハビリテーション機器として、ロボットシステムの「リゲイト」と「アンウェイシステム」の 2 機種が、鶴岡市のご理解で導入されました。前者は歩行訓練時に下肢の動きをサポートする機器、後者は体重を支えて歩行をサポートする機器です。いずれも、従来は療法士の手で患者さんの対応をしていましたが、人の手は 2 本しかなく、手の届かないところにも機械的に対応が出来、より効率的で有効なりハビリが行われると期待しております。担当スタッフは、機器の操作研修を終了し、運用を開始しております。

また、来年度には、2016 年からの当院の懸案であった電子カルテシステムの導入を要求しています。電子カルテは、今や病院の医療、検査、薬剤、経営などあらゆるシステムに組み込まれており、それ無くしては医療、病院の運用が極めて困難な時代になっています。病院の将来の地盤確保のためにも、何としても導入をお願いしたいと考えております。

以上当院の状況をご報告いたしました。本年もよろしくお願い申し上げます。

## 第44回 市町長・部課長、庄内保健所、荘内病院、 こころの医療センター、医師会役員懇談会

日時：令和 6 年 11 月 26 日(火) 18:30～  
場所：グランド エル・サン

11月26日、グランドエル・サンにおいて、第44回市町長・部課長、庄内保健所、荘内病院、こころの医療センター、医師会役員懇談会が開催されました。

鶴岡市長 皆川 治 氏よりご挨拶をいただき、鶴岡市健康福祉部地域包括ケア推進課長 齋藤 芳氏、庄内保健所長 蘆野 吉和 先生、鶴岡市立荘内病院診療部栄養科副科長 管理栄養士 富樫 博子 氏、鶴岡地区医師会副会長 菅原 真樹 先生より話題提供をいただきました。

詳細は抄録をご覧ください。鶴岡市立荘内病院および鶴岡地区医師会の抄録は、次回 3 月 15 日号に掲載いたします。

\* \* \* \* \*



### 地域包括ケアパスにおける介護施設の対応状況とACPの取組みの実態

鶴岡市健康福祉部地域包括ケア推進課長 齋藤 芳

今後、医療と介護の両方を必要とする高齢者の増加に伴い、急性期及び療養の患者が増加すると見込まれる中、一定の回復をした方の自宅や介護施設への移行が重要になる。鶴岡市では、荘内病院を中心とした 3 病院による地域医療連携パスに対する介護施設の参加促進が必要と捉え、6 月に地域包括ケアパスに関する介護施設等の実態と課題についてのアンケート調査、8～9 月に施設訪問ヒアリングを実施した。

#### (地域包括ケアパスの対応状況)

鶴岡市内の介護老人福祉施設、介護老人保健施設等 20 施設を対象に、地域包括ケアパスの認知状況とその要因などをアンケート調査したところ、地域包括ケアパスについては、「知っている」「言葉だけは知っている」を合わせ 85% の施設が認識していた。

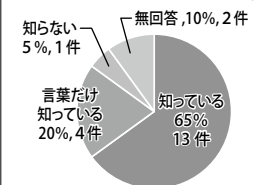
一方、参加の検討状況は、「参加を検討している」15% に対し、「検討していない・分からない」が 75% と高く、その主な要因として、「医療依存度の高い方（特に夜間帯）への対応」と、「地域包括ケアパスにおける施設の役割が良く分からない」といった施設の不安があった。

そこで、アンケート結果を踏まえ、荘内病院と連携して施設を訪問し、改めて、医療依存度の高い方に対する救急対応の実態等のヒアリングと、地域包括ケアパスの説明を重ねたところ、参加を前向きに検討していきたいという施設がアンケート時の 3 施設から 12 施設に増加した。

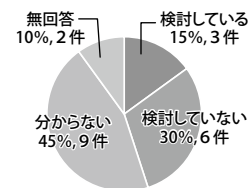
#### (施設におけるACP（人生会議）の取組み状況)

また、訪問時に ACP の取組みについても併せてヒアリングしたところ、9 割の施設が、施設での看取りの希望の意思確認等、ACP に取り組まれていた。施設の話では、以前より施設での看取りを希望する方、ご家族が増えてきているとのことであった。定員 100～120 人の施設では年間 30～40 人の方が亡くなっているが、病院に搬送されて亡くなる方はそのうち 2～3 人ということであり、施設と自宅で亡くなる方が増加し、病院で亡くなる方が 2005 年をピークに減少している全国データと同様の傾向が見られた。

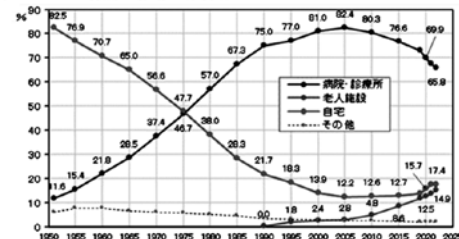
(問) 地域包括ケアパスを知っていますか。(n=20)



(問) 地域包括ケアパスへの参加の検討していますか。(n=20)



日本人の死亡場所の推移（割合）



全国的にも、施設と自宅で亡くなる方の割合が伸び、病院で亡くなる方が 2005 年をピークに減少。

(まとめ)

地域包括ケアパスへの施設の参加については、庄内病院との訪問等で理解が深まり、参加を検討したいという意向の拡大につながった。市としては、今回の調査に限らず、施設に対し地域包括ケアパスへの参加を継続して促していく。

また、終末期に受けたい医療や看取りについて自らの意思を示しておくACPについては、施設の9割が取り組みを進めている実態を把握できた。今後、市では住み慣れた自宅や地域で、最後まで自分らしい暮らしを支える「医療」を確保するためにも、在宅の高齢者などに対する普及を進めていく。

\* \* \* \* \*

新たな地域医療構想

庄内総合支庁保健福祉環境部医療監 兼 庄内保健所長 蘆野 吉和

2023年は、現在進められている「地域医療構想」について、病床削減という課題より、むしろ増加している「高齢者救急」への対応のために、病院間の役割分担・連携そして高齢者施設を含む在宅医療との連携強化が重要な課題であること、そのための今後の地域の医療機関の取組のありたい姿、病院間の連携を含む入院期間の短縮と、早期からのリハビリ、栄養、口腔ケアの三位一体型の介入、高齢者施設を含む在宅医療受け皿の拡大、高齢者施設での医療支援体制強化、そして、病状悪化の可能性のある病態では、居宅・高齢者施設からの早期入院治療重要性等について提言した。これらの提言は、2024年度の診療報酬・介護報酬改定の重点課題となり、実現に向けた様々な報酬が新設あるいは加算となっており、すでに庄内地域でも取り組み始められている。

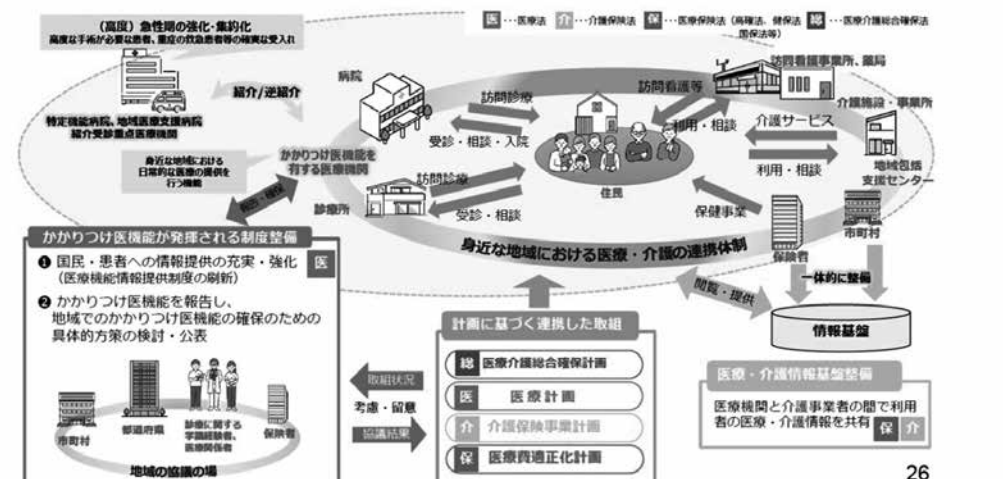


今回は、現在、2025年度で終了する「地域医療構想」に代わり、2027年度より取り組みが始まる予定の「新たな地域医療構想（仮称）」について話題提供する。

これは2024年3月29日より検討（新たな地域医療構想等に関する検討会）が始まり、すでに後半の議論となっている。これまでの「地域医療構想」とは本質的な違いがあり、病院間での協議ではなく、『外来医療、在宅医療、介護施設・事業者・住まいとの連携等について地域（身近な地域）で協議を行うもの』であり、特に、2040年においても『持続可能な質の高い効率的な医療提供体制の確保を目指すもの』とされている。特に重要な課題として取り上げられているのが高齢者救急であり在宅医療であることは、現在の庄内地域で直面している課題そのものである。

地域完結型の医療・介護提供体制の構築

在宅を中心に入退院を繰り返し、最後は看取りを要する高齢者を支えるため、かかりつけ医機能が発揮される制度整備・各種計画との連携・情報基盤の整備により、かかりつけ医機能を有する医療機関を中心とした患者に身近な地域における医療・介護の水平的連携を進め、「地域完結型」の医療・介護提供体制を構築する



庄内地域は2024年7月に現在の地域医療構想の「モデル推進区域」に指定され、そのための協議を行っているが、協議のための原案（「住み慣れた地域での暮らしを支える保健・医療・介護・福祉ネットワーク構築事業案」）は2040年の庄内地域の状況を推察し、庄内地域の人々が人生の最期に「この地域で暮らしてよかった」と思える地域環境を整備することを目的に作成する。2035年には人口約20万人、2040年には20万人を下回り、2050年には16万人となること、その一方で医療および介護ニーズのある85歳以上の超高齢者が増え続ける、そして、医療従事者特に医師や看護師が不足する。この状況を念頭において、「南庄内」「北庄内」それぞれではなく、「庄内」全体を俯瞰した上での、各関係者（行政も含め）の前向きな議論を期待する。なお、来年の2月末まで短期間の作業である。

## 表紙写真にご協力いただいた先生の紹介（敬称略）

佐藤  
満雄

齋藤  
純夫

堀内  
隆三

小島  
研司

高橋  
美香子

今立  
明宏

長島  
義宜

ご協力ありがとうございました。



## 新年の抱負（年男・年女）



### 佐藤 満雄（鶴岡協立病院）

1970年に宮城県塩釜市の坂総合病院から庄内医療生協の本町無床診療所（旧荘内銀行本店前）に一人所長として赴任してから54年の歳月がたちました。当時は外来診療、訪問診療（往診）が主で、手術は荘内病院に特にお世話になった事が記憶に残っております。7回目の年男で、体力の低下は著明になり、鶴岡地区医師会の月例ゴルフコンペでも飛距離の低下が著明で、若手の同伴の先生方に助けられて18ホール廻っております。

### 堀内 隆三（鶴岡協立病院）

明けましておめでとうございます。

先日、映画「パーフェクトデイズ」を観て、幸せとはこんなものかと思っています。

これからの人生、茶と禅を支えとし、心しずかにあるがままの命に落ちつき、日々淡々と生きていきたいと思ひます。

### 高橋 美香子（鶴岡協立病院）

今までも、これからも、その一步を大切にしたいです。

どれだけ進んだかではなく、どこまで到達したかでもなく、一步一步の過程を、楽しみながら大切にしたいと思ひます。

オンもオフも一歩ずつ積み重ねてゆきます。

### 長島 義宜（みやはらクリニック）

昨年1月に荘内病院へ異動し、1年が経ちました。荘内病院には同級生も多く、地元に戻って来たのだと実感しています。新年を迎え、荘内病院では多職種チームでの心不全診療充実を目指します。みやはらクリニックでは、昨年9月に開始した心臓リハビリを充実させて、患者様の健康に役立てるように努めたいと思ひます。

### 齋藤 純夫（斎藤内科医院）

足腰が弱ってきましたが、もうひと頑張りしたいと思います。

今年ようやくおじいちゃんになります。楽しみにしています。



### 小島 研司（鶴岡市立荘内病院）

明けましておめでとうございます。

荘内病院を定年退職後、再雇用して頂き引き続き勤務しています。

自由な時間が増え、カレンダー・財布と相談しながらJR時刻表を片手に一人旅を楽しんでいます。

今年も旅行できますように！

### 今立 明宏（今立小児科医院）

あけましておめでとうございます。5回目の年男になりました。

6回目の年男になるまで、無事に仕事が続けられていたらいいなと思ひます。



## 第 17 回 庄内プロジェクト 緩和ケア市民公開講座開催

日時：令和 6 年 11 月 23 日(土) 13:30～  
場所：いろり火の里 なの花ホール

鶴岡市立庄内病院 地域医療連携室 渡部 忠

第 17 回 庄内プロジェクト緩和ケア市民公開講座が令和 6 年 11 月 23 日(土)、三川町いろり火の里なの花ホールにて開催されました。当日は 117 名の来場者があり大変盛況でした。

まず初めに、協議会会長（鶴岡地区医師会長）福原晶子先生、共催者の鶴岡市長、三川町長のご挨拶で始まり、次いで緩和ケアサポートセンター鶴岡・三川のセンター長 鈴木 聡 荘内病院長が、「庄内プロジェクトのあゆみ、緩和ケア普及の成果と今後」について紹介しました。

続いて「あなたかわたし」のがんの話をしよう」という演題で NPO 法人がんノート代表理事 岸田 徹（きしだ とおる）氏より講演していただきました。

岸田氏は 25 歳で「胎児性がん」の告知を受け、3 ヶ月の抗がん剤治療と 2 度の手術を受けるも 2 年半後に再発。再手術を受け現在は経過観察中ながら、自身の闘病経験からがん経験者によるインタビュー番組「がんノート」という Youtube チャンネルを運営している方です。

講演は、気さくな大阪弁やクイズなどを交えた楽しくもわかりやすい内容で、とても盛り上がりました。

その後の座談会では講師のほか、荘内病院の和泉先生、緩和認定看護師、がん相談員、「からだ館」スタッフ、患者家族が参加し、それぞれの思いや活動の様子を語り合い、地域における緩和ケアの状況が紹介されました。

終了後のアンケートでは「とても良かった 83%」「まあまあ良かった 16%」と大変好評でした。他にアンケートには「岸田先生の講演よかったです。」「知らないでいることが沢山聞けてとても良かったです。」「いざという時は一人で悩まず積極的に相談に行きたいと思いました。」など、多くの来場者からの意見をいただきました。

平成 20 年から活動を開始した庄内プロジェクトは、緩和ケアの普及・啓発を目的として、市民公開講座のほかに、患者さんやご家族と医療者が語り合えるための「ほっと広場」の提供を今後も進めていく予定です。

令和 6 年度緩和ケア市民公開講座が、関係者の皆様のご協力で盛会のうちに終了することができ、深く感謝申し上げます。

岸田氏



座談会



スタッフ集合





## Introduction

## 研修医

鶴岡市立荘内病院臨床研修医 1 年目 <sup>たけしま</sup>武島 <sup>えいすけ</sup>英資

初めまして。令和 6 年 4 月から山形県鶴岡市立荘内病院で初期研修医として勤務を始めました、武島英資（たけしま えいすけ）と申します。出身は神奈川県川崎市で、東邦大学医学部を卒業後、この鶴岡で新たなスタートを切ることとなりました。まだまだ未熟な研修医ではありますが、地域医療の現場で日々学びながら成長していきたいと思っています。

鶴岡市は自然が豊かで、四季折々の美しい風景に囲まれた場所です。特に印象に残っているのは、赤川の花火大会です。東京で生まれ育った私にとって、こんなにも大きな花火を間近で見る経験は初めてでした。広がる空に咲く大輪の花火に、思わず息を呑むとともに、この地域の温かさを感じました。こうした地元の行事に参加し、地域の人々と交流を深めることができることに感謝しています。

研修医としての生活は想像以上に忙しく、責任の重さを感じる日々ですが、充実感も大きいです。荘内病院は地域に密着した医療を提供する中核的な病院であり、患者さん一人一人の生活背景を理解した上での診療が求められます。この環境で学ぶ中で、医療技術だけでなく、地域医療に対する深い理解が必要であることを痛感しています。

一方で、不安を抱える場面もあります。鶴岡の冬は私にとって初めての経験です。川崎では雪が積もることがほとんどなく、雪道の歩行や運転に不安を感じています。それでも、地域の

方々の温かいアドバイスやサポートのおかげで少しずつ慣れつつあります。雪に包まれた景色の美しさを楽しみながら、この新しい環境に適応していきたいと思っています。

私が研修医として大切にしているのは、患者さんとの信頼関係を築くことです。診断や治療はもちろん重要ですが、患者さんの不安に寄り添い、安心して治療を受けていただける環境をつくるのが何よりも大切だと考えています。そのために、患者さんのお話を丁寧に聞き、共感する姿勢を忘れないよう心がけています。

さらに、荘内病院では多職種との連携が欠かせません。医師だけでなく、看護師や薬剤師、リハビリスタッフ、事務職員の方々とチームを組み、患者さんを支える体制が整っています。この協力の中で、自分の役割を理解し、貢献することで医療の質を高めることができると実感しています。

鶴岡での生活は、医師としてだけでなく、一人の人間としても大きく成長できる場です。地域の方々との絆を深め、地域の医療ニーズに応える柔軟な医師を目指して、これからも努力を続けていきたいと考えています。また、厳しい冬や新しい環境に挑戦することで、心身ともにたくましくなりたいと思います。

最後に、これからも地域の皆さまに信頼される医師となるため、知識と技術を磨きながら、患者さんに寄り添った医療を提供していく所存です。この鶴岡での研修生活を通じて、得られる経験を大切に、医師として成長を重ねていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

## 表 彰

この度、次の先生方が栄えある表彰を受けられました。  
誠にめでとうございます。



中目 千之 先生

### 山形県特別功労賞

山形県医師会役員等として地域医療の推進に大きく貢献した功績および新型コロナウイルス感染症に係る功績が認められ、山形県知事より表彰されました。(11月19日表彰)

### 山形県学校保健連合会学校保健功労者表彰

長年にわたり地域の学校保健業務にご尽力された功績が認められ、山形県学校保健連合会より表彰されました。(11月21日表彰)



中村内科胃腸科医院  
中村 秀幸 先生



佐久間医院  
佐久間 正幸 先生

## 医師会ニューフェイス ～令和7年1月1日採用～



氏 名：五十嵐 里 美

所 属：在宅サービスセンター  
訪問看護ステーションハローナース 看護師

趣味・特技：犬の散歩

ひとこと：心機一転、明るく元気に頑張ります。

よろしく申し上げます。

## 故 林 順一 先生 心よりお悔やみ申し上げます

令和 6 年 11 月 24 日ご逝去 享年 88 歳

### 11 月・12 月 行事表

- |        |   |        |  |
|--------|---|--------|--|
| 11月 1日 | 在宅サービスセンター・みずばしょう<br>合同運営委員会                          | 12月 2日 | 県医サイバーセキュリティインシデン<br>トを想定した対処訓練                      |
| 5日     | 庄内南部地域連携パス推進協議会運営<br>委員会（メール会議）                       | 5日     | 第 2 回庄内地域保健医療協議会在宅医<br>療専門部会                         |
| 7日     | 医療と介護の連携研修会   | 〃      | 学術広報委員会  |
| 8日     | 地域産業保健センター運営主幹会議                                      | 6日     | 酒田地区医師会十全堂忘年会  |
| 11日    | 県医医療従事者安全確保対策委員会                                      | 9日     | 整形外科症例検討会  |
| 〃      | 鶴岡市糖尿病予防対策会議  | 10日    | 荘内病院地域医療連携推進協議会・鶴<br>岡地区医師会・登録医・荘内病院合同懇<br>談会        |
| 〃      | 整形外科症例検討会   | 11日    | 県医第 11 回全理事会   |
| 12日    | 県医呼吸器検診中央委員会  | 〃      | 日本海総合病院、鶴岡市立荘内病院及<br>び庄内保健所による新興感染症等の発<br>生を想定した合同訓練 |
| 13日    | 県医第 7 回常任理事会  | 〃      | 緩和ケア症例検討会  |
| 〃      | 職員採用面接試験  | 16日    | 地域 N S T 会議「南庄内・たべるを<br>支援し隊」                        |
| 〃      | 緩和ケア症例検討会   | 17日    | 職員採用面接試験   |
| 14日    | つくし運営委員会  | 〃      | みずばしょう運営委員会  |
| 15日    | 鶴岡市国民健康保険運営協議会  | 20日    | 庄内 AMR 等対策ネットワークコアメ<br>ンバー会議                         |
| 〃      | 耳鼻科医会   | 23日    | 定例理事会  |
| 16日    | 庄内地域医療情報ネットワーク特別講演会                                   | 25日    | 県医担当部理事会   |
| 18日    | 県医乳がん検診中央委員会  |        |  |
| 20日    | 関節リウマチ講演会   |        |  |
| 21日    | 用度委員会   |        |  |
| 〃      | 総務委員会   |        |  |
| 23日    | 緩和ケア市民公開講座  |        |  |
| 25日    | 定例理事会   |        |  |
| 26日    | 五者懇談会（市町長・部課長、庄内保<br>健所、荘内病院、こころの医療セン<br>ター、医師会役員懇談会） |        |  |
| 〃      | 県医子宮がん検診委員会   |        |  |
| 27日    | 地域感染対策合同カンファレンス                                       |        |  |
| 〃      | 県医師信用組合理事会  |        |  |
| 〃      | 県医協同組合理事会   |        |  |
| 〃      | 県医第 10 回全理事会  |        |  |
| 〃      | 県医担当部理事会  |        |  |
| 28日    | 南庄内在宅医療を考える会  |        |  |



## 令和 6 年度 第 8 回 定例 理事会

(令和 6 年 11 月 25 日)

出席者	会 長	福原晶子					
	副 会 長	石原 良	菅原真樹				
	理 事	武田憲夫	蘆野吉和	本田 学	吉田 宏		
		岡田恒人	鈴木 聡	三浦道治	渡邊秀平	中目哲平	
	監 事	阿部周市	木根淵智子	真島英太			
	議 長	堀内隆三					
	副 議 長	三井卓弥					
	事 務 局	土屋清光	五十嵐亜希	高橋 巧	本間幸井		

## 報 告

## 総 務

- (1) 会員の訃報について（福原会長）
- (2) 県医第 7 回常任理事会について（鈴木理事）  
11月13日(水) 15:30 県医師会館／オンライン開催
- (3) 職員の退職について（三浦理事）
- (4) 令和 6 年度上半期収支計算報告について（各担当理事）
- (5) 令和 6 年 10 月期事業会計収入実績について（参考）

## 医療連携・医療情報

- (1) 県医医療従事者安全確保対策委員会について（石原副会長）  
11月11日(月) 18:30 県医師会館／オンライン開催
- (2) 庄内地域医療情報ネットワーク特別講演会について（福原会長）  
11月16日(土) 14:00 日本海総合病院
- (3) 緩和ケア市民公開講座について（福原会長）  
11月23日(土) 13:30 なの花ホール

## 保険衛生福祉

- (1) 地域産業保健センター運営主幹会議について（石原副会長）  
11月 8 日(金) 16:00 オンライン開催
- (2) 新型コロナ等の感染状況について（蘆野理事）

## 在宅サービスセンター・介護老人保健施設

- (1) 在宅サービスセンター・みずばしょう合同運営委員会について（本田理事）  
11月 1 日(金) 19:00 会議室

## 協 議

- (1) 新年祝賀会の来賓について（福原会長）  
1 月 17 日(金) 18:30 新茶屋
- (2) 健康管理センター運営委員会について（石原副会長）  
10月31日(木) 19:00 講堂
- (3) つくし運営委員会について（中目理事）  
11月14日(木) 19:00 会議室
- (4) 職員の採用および募集人数の変更について（三浦理事）  
・職員採用面接試験  
11月13日(水) 18:30 会議室
- (5) 総務委員会について（菅原副会長）  
11月21日(木) 19:00 会議室
- (6) 用度委員会について（三浦理事）  
11月21日(木) 18:45 小会議室
- (7) 健康管理医の推薦依頼について（事務局）

## 令和 6 年度 第 9 回 定 例 理 事 会

(令和 6 年 12 月 23 日)

出席者	会 長	福原晶子					
	副 会 長	石原 良	菅原真樹				
	理 事	武田憲夫	三原一郎	蘆野吉和	本田 学	吉田 宏	
		鈴木 聡	三浦道治	渡邊秀平	中日哲平		
	監 事	阿部周市	真島英太				
	議 長	堀内隆三					
	副 議 長	三井卓弥					
	事 務 局	土屋清光	五十嵐亜希	難波 崇	金内弘子		

## 報 告

## 総 務

- 県医第 10 回全理事会、第 11 回全理事会について (阿部監事)
  - 11 月 27 日(水) 15:30 県医師会館/オンライン開催
  - 12 月 11 日(水) 15:30 県医師会館/オンライン開催
- 五者懇談会 (市町長・部課長、庄内保健所、庄内病院、こころの医療センター、医師会役員懇談会) について (福原会長)
  - 11 月 26 日(火) 18:30 グランドエル・サン
- 庄内地域保健医療協議会在宅医療専門部会について (三原理事)
  - 12 月 5 日(木) 18:30 オンライン開催
- 令和 6 年 11 月期事業会計収入実績について (参考)
- 酒田地区医師会十全堂忘年会について (福原会長)
  - 12 月 6 日(金) 18:30 ホテルリッチ&ガーデン酒田

## 医療連携・医療情報

- 庄内病院地域医療連携推進協議会・鶴岡地区医師会・登録医・庄内病院合同懇談会について (鈴木理事)
  - 12 月 10 日(火) 19:00 東京第一ホテル鶴岡

## 保険衛生福祉

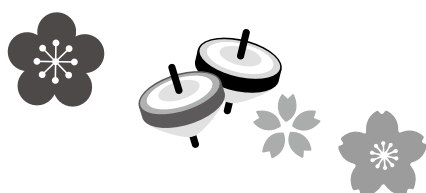
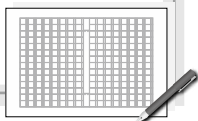
- 庄内 AMR 等対策ネットワークコアメンバー会議について (蘆野理事)
  - 12 月 20 日(金) 18:00 オンライン開催
- 新型コロナ等の感染状況について (蘆野理事)

## 協 議

- みずばしょう運営委員会について (渡邊理事)
  - 12 月 17 日(火) 19:00 会議室
- 職員の採用について (菅原副会長)
  - ・職員採用面接試験
  - 12 月 17 日(火) 18:30 小会議室
- 職員紹介採用制度について (菅原副会長)
- 委員の推薦依頼について (事務局)
- 嘱託医師の推薦依頼について (事務局)
- 学校医の推薦依頼について (事務局)
- 後援の依頼について (事務局)

## 原稿募集中！

趣味・話題・旅行記・思い出が  
あるもの・大切な思い出の出来事等  
なんでも構いません。  
総務課までご一報を！



### 目 次

・表紙	1
・年頭のごあいさつ（福原会長）	2
・年頭のごあいさつ（武田院長）	3
・第 44 回 市町長・部課長、庄内保健所、庄内病院、 こころの医療センター、医師会役員懇談会	4
・表紙写真にご協力いただいた先生の紹介	6
・新年の抱負（年男・年女）	7
・第 17 回 庄内プロジェクト 緩和ケア市民公開講座開催	8
・Introduction 研修医	9
・表彰	10
・医師会ニューフェイス	10
・11・12 月行事表	11
・理事会報告	12
・編集後記	14

## 編 集 後 記

新年あけましておめでとうございます。令和 7 年の新春を迎え、皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、今年、令和 7 年は十二支でいうところの「巳年（みどし）」です。蛇は古来より、脱皮を繰り返す様から「再生」や「生命力」の象徴とされ、また、弁財天の使いとされるなど、縁起の良い動物として親しまれてきました。

医学の世界においても、蛇のイメージは古くから存在します。医療の象徴である「アスクレピオスの杖」は、蛇が巻き付いた杖であり、これは医療、治癒、生命の再生を意味しています。この杖は、世界保健機関（WHO）のシンボルマークにも用いられており、現代医学においても重要な意味を持っています。

近年、医療を取り巻く環境は大きく変化しています。高齢化の進展、医療技術の高度化、そして新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症の流行など、課題は山積しています。このような状況の中、私たち鶴岡地区医師会は、地域の皆様の健康を守るため、医療・介護の提供や連携体制の充実、疾病予防活動などに力を注いでまいりました。

変化の激しい時代だからこそ、蛇の持つ「再生」の力、そして「変化への適応力」は、私たちにとって重要な示唆を与えてくれます。過去の経験を糧とし、変化を恐れず、常に新しい知識や技術を取り入れ、地域医療の更なる発展に貢献していければと思います。

本年も、鶴岡地区医師会は、地域の皆様に寄り添い、信頼される医療と介護を提供できるよう、会員・職員一同、精一杯努めていく所存です。皆様のご理解とご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。


この「めでいかすとる」が、今年も皆様にとって医師会活動の情報源となり「意見の広場」としての一助となれば幸いです。

（阿部 周市）

編集委員：菅原真樹・吉田 宏・阿部周市・三井卓弥・真島英太・中目哲平

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町 1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail [ishikai@tsuruoka-med.jp](mailto:ishikai@tsuruoka-med.jp)

ホームページにも掲載しております [鶴岡地区医師会](https://www.tsuruoka-med.jp)  URL <https://www.tsuruoka-med.jp>

印刷所：富士印刷株式会社 鶴岡市美咲町 27-1 TEL 22-0936 (代)